

急速普及、社会意識に変化

男性育休 初の50%超

令和の時代が始まった2019年度に7%だった男性の育児休業取得率が50・9%となり、初めて50%を超えた。施策の充実に社会の意識変化が重なり、急速に普及した。ただ「取りたくても取れない」人も依然多く、伸びしろは残っているとみられる。育休自体を人材獲得の呼び水にする動きも始まっている。



育休中に子どもを抱く平本哲也さん(本人提供)

「当たり前の空気」に

「当たり前の空気に乗っただけ」。23年冬、1カ月半の育休を取得した大王製紙(東京)の社員平本哲也さん(42)は振り返る。

▽100%宣言

営業職で忙しく動き回っていたが一転、おむつ替えや夜泣きに追われる日々。仕事の方が楽だとすら感じた。それでも、わが子の成長を妻と見守る経験はかけがえなく「取らなかつたら後悔していた」と断言する。ベビー用品を扱う同社は21年、社長が「男性育休取得100%」を宣言。トップダ



※2025年度の男性育休取得率は50.9%。厚生労働省の調査による

ウンで意識改革が進み、宣言前は1桁台だった取得率は90%を超えている。育休の意向確認義務付けなどの影響もあり、大企業を中心に取得率は向上した。厚生労働省の担当者はこう語る。「制度を整えても、利用してもらえなければ意味がない。(育休が)社

▽断念

かつては会社の規模によって取得率の差が大きかったが縮小する傾向にある。前回24年度調査で500人以上の事業所は53・8%。5～29人は25・1%だったが、今回は42・9%に伸びた。代替人員の確保や業務を力パ―した従業員への手当を支援する国の助成制度が下支えした。一方で、厚労省が若者を

▽付加価値

こうした中、新潟県長岡市は、育休を希望する男性は83・5%に上った。今回の育休調査の取得率50・9%との差から見ると、断念している人は少なくないと想定される。取得期間は女性の9割が6カ月以上。8割近い男性は3カ月未満だったが、就業情報会社「マイナビ」が育休経験者の父親を対象に行なったアンケートでは、理想の日数は平均138日。希望がかなっているとはいえない。

人材獲得、企業の生存戦略に

市の屋根部品製造会社「サカタ製作所」は、男性社員の育休取得率100%を8年連続で維持している。同規模の中小企業の離職率は10%台とされる中、4・5%に抑えている。仕事と育児を両立させた人と転職してくる人も増えた。人事担当者は「地方の中小企業が選ばれるためには働き方で付加価値を見せる必要がある」と話す。

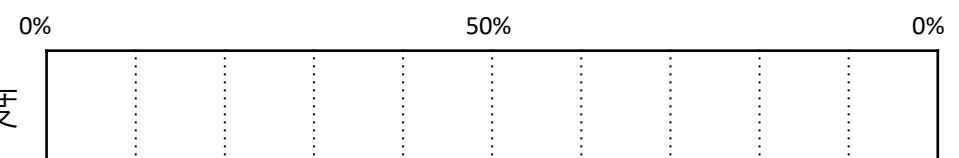
厚労省の調べによると、就職先を選ぶ際、育休の取得率や期間を重視する人は4割を超えている。裏を返せば取得しにくい職場は敬遠される恐れがあることを意味する。「ワーク・ライフバランス」社のコンサルティングで、自身も育休経験を持つ大畑慎彦さんは「男性育休は福利厚生ではなく、人材確保や組織改革を進める契機だ」と指摘。取得を広げるには、業務の属人化を避け、従業員同士が支え合える体制づくりが重要だという。職場環境の改善や人材定着にもつながるとして「企業の生存戦略として進めるべきだ」と強調する。

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

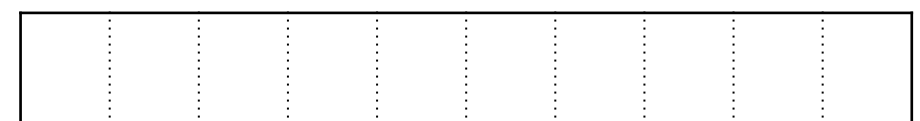
左の記事を読んで、下の問いに答えましょう。

1 2019年度、2025年度について、子どもが生まれた男性のうち「育休を取得した男性」「育休を取得しなかった男性」の割合を右のグラフに書き入れ、割合の帯グラフを完成させましょう。

2019年度



2025年度



2 記事の左上にある円グラフで、「育休を希望しない(16.5%)」の扇形の中心角は何度になりますか。計算して、四捨五入して整数で答えましょう。

約[]度

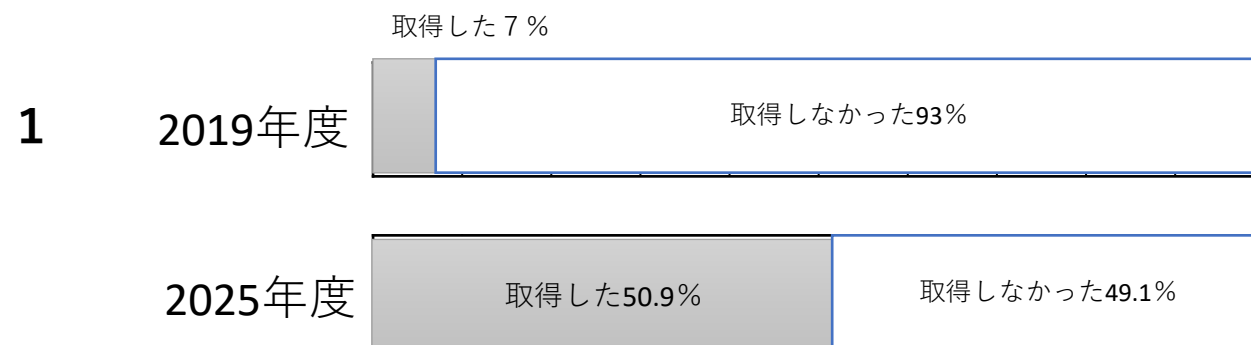
3 就職する際に、育休の取得率や期間を重視する人は全体の約何割ですか。

約[]割

NIEワークシートのこたえ（2026年8月31日公開）

◆ワークシート

「男性育休初の50%超（数学）」
2026.8.19付 朝刊 7面 解答



2 約 59 度 3 約 4 割

すてっぴあっぴ

★わたしからのひとこと！（記事を読んだの感想や意見を1行で書いてみましょう。）

--

★100字シート (□にチェック) □記事の要約 □記事に対する感想・意見

[illegible]